

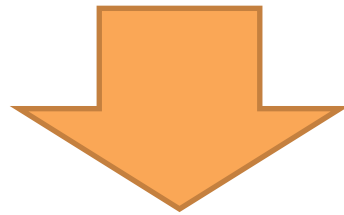
言語活動を取り入れた授業実践 から考える学習評価

埼玉県立朝霞高等学校

春日井 優

背景

- 学習指導要領で授業内容の取り扱いとして「自己評価」・「相互評価」を取り入れることが求められている



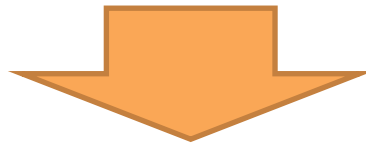
なぜ？

何のための評価？

点数を上げるため？

成績をつけるため？

序列化するため!?



自己評価・相互評価の意味がわからない！

評価は英語にすると？

- Grading
- Evaluation
- Assessment

学習理論と評価のパラダイム変換

		行動主義	認知主義 (情報处理的アプローチ)	構成主義	社会構成主義
主な理論家		スキナー	ガニエ	ピアジェ	ヴィゴツキー レイブとヴェンガー
学 習	特徴	学校化された学習		真正な学習	
	知識観	知識は普遍的に真なもの		知識は一人一人が自ら構成するもの	知識は社会的な営みの中で構成するもの
	学習観	知識伝達		学習者の事前知識から事後知識への質的な変化	学習者の事前知識から事後知識への質的な変化(共同体の社会的な営みを通じた内化)
	主体	教師中心		学習者中心	
	学習者の態度	受動的		能動的・自律的	
	学習課題	学校化された課題		真正な課題	
	情報システムへの適用	CAI ティーチング・マシン	知的CAI 知的チュータリング・システム エキスパート・システム	LOGO マインドストーム	CSCCL eラーニング
評 価	特徴	学校化された評価		真正な評価	
	評価期間	ある時点		継続的	
	評価形態	テストの客観的な評価		学習者のパフォーマンス(学習成果物など)の主観的な評価	
	評価される対象	テストの点数を重視		学習活動のプロセスを通じた学習成果物や記録を重視	
	評価の在り方	学習と切り離された評価		学習に埋め込まれた評価	
	評価方法	テスト		ポートフォリオ	
	能力測定	学習プロセス同定と 診断的評価	セルフ・アセスメント	ピア・アセスメント (専門家による)他者評価	

学習と評価の一体化

- 評価は学習の一部
- 学習と評価は切り離すことができない

「評価」自体が「学習」そのもの！

自己評価の本質的な意味での可能性

- ① 自分自身を振り返って自分なりに吟味してみる機会を与える。
- ② 外的な評価の確認を伴った形でなされるならば、独りよがりでない客観的な妥当性を持つ自己認識を成立させる。
- ③ 自己評価の項目や視点により、これまで意識していなかった面に新たに気づき、そこに潜む問題点を明確化することができる。
- ④ 自己感情を喚起し、深化する。
- ⑤ 自分の次のステップについて新たな決意、新たな意欲を持つ。

(梶田叡一, "教育評価[第2版補訂2版]", 有斐閣双書, 2010)

相互評価のよさ

- 学習者をより自律的にさせ、学習動機を高める。
- 他の学習者の意見は、テストによる単なる点数以上に学習者の内省を促進する。
- 他の学習者を評価することにより、相手の成果から学んだり、自己の内省を促すことができる。
- 学習者同士からのフィードバックは理解しやすく、教師が考えつかないような有用でバラエティに富むフィードバックが期待できる。
- 教師が一人で採点を行うよりも、多人数で評価を行った方が信頼性が高くなる。

相互評価は、さらなる自己評価へつながる

(森本康彦, "失敗しない効果的なeポートフォリオの活用法", CAUA FORUM 2010)

自己評価・相互評価で大丈夫？

- 自己評価

独りよがりな評価にならない？

- 相互評価

信頼できる結果を得られるの？

2つの評価キジユン

「目標に準拠した評価」

- 評価規準

教育目標を評価規準とする ... 質的

『おおむね満足できる』状況について設定

- 評価基準

「規準」を量的・段階的に具体化

段階の「切れ目」

(田中耕治, “教育評価”, 岩波書店, 2008)

(久野靖/辰己丈夫[監修], “情報科教育法[改訂2版]”, オーム社, 2009)

(国立教育政策研究所, “評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料”, 2012)

これまでに行った授業実践

「言語活動の充実」

→ Webページの制作意図を考える

制作意図の論述・話し合い・発表

自己評価

→ Webページの作成

Webページの作成

相互評価 ⇨ 改善 ⇨ 再評価

自己評価の実践について

- 自己評価は、**学習をモニタリングしたりコントロールすることが重要！**

でも、記録しておくことも必要！

- 反省

内省を促すような指導はしていたが...
自己評価の重要性に気づいていなく
あまり実践してこなかった...

相互評価の具体的な方法

- 直接コメントを伝える
 - 手軽
 - 記録が残らない
- プリントを利用
 - 手軽
 - 交換が困難、教師の指導への利用困難
- 表計算ソフトを利用
 - 指導に利用可能、集約も可能
 - 少し手間がかかる ⇨ マクロで自動化
- Web上の入力フォームの利用
 - 集約が自動的にできる
 - 環境が制約される

方法は本質ではない！

Excelによる相互評価の集約

- 実際にやってみましょう！

手作業の手間 < マクロ作成の手間

だったので自動化していませんm(__)m

今日のまとめ

- 学習・評価のパラダイム変換
- アセスメントとしての評価
- 学習と評価を切り離して考えることはできない
- 評価規準と評価基準
- 評価して終わりではなく、評価を学習に活かす